

図書館だより

2020年

9月号

編集・発行

指定管理者

(株)図書館流通センター
出水営業所



九月になりましたね。だけど、コロナの影響は依然として大きく変わりません。遠出もままなりません。テレビのスイッチを入れることが多いです。夜半、「いま、あなたに『贈りたい歌』」という歌番組に出会いました。「いま」はコロナに翻弄されているいまです。「大切な人に贈りたい歌」等のテーマで募集した結果、放送局に寄せられた数々の歌が紹介されました。私は2回とも見ました。それでも足りずに録画したのをいまでも見えています。全部で30曲ほど。全て忘れられないのですが、中でもトランペットが大写しになったときは痺れました。

思い出を一文。

責任者 田島 英樹

『鋸坂少年 トランペット』

そこは大きな講堂の北側にあり、音楽の時間にはピアノの音と、声変わり中特有の男性の歌声でお世辞にも聞き惚れるというようなものとはおよそ縁遠い雰囲気満ちていた。北隣には高校のグラウンドが迫り、午後4時過ぎ位からキャッチボールの掛け声やノック練習に伴う「カキーン」という音などが講堂の北側に木霊していた。隣の高校は3年前の昭和三五年、野球部が鹿児島県内の地方チームとしては初めての甲子園大会出場を果たしていた。そのせいか、野球部員は多く、広いグラウンドが狭く感じられた。市民の関心も高く、平日の練習時でも熱狂的なファンがグラウンドの西側を流れる水路の淵に腰かけて眺める光景が目立った。大きな講堂の北側は、右翼ポジションの後部にあり、とき折り打球の直撃を受けることもあった。

「そこ」は中学校の音楽室である。放課後ともなれば吹奏楽部の練習が始まるらしく、誰彼ともなく部員が集まってくる。正面黒板の上に滝廉太郎やバッハ、ショパン、シューベルトなど作曲家の顔が並んでいた。顔は古ぼけた印象で、耳が欠けたひどい顔もあった。鋸坂少年は中学生になっていた。何時からか吹奏楽部の練習に加わっており、古く朽ちた感じがする音楽室で、永く使われたであろう木製の長椅子に座して練習の傍ら作曲家の顔をよく眺めた。特に、丸い眼鏡の滝廉太郎には飽きる事が無かった。外国の作曲家にはあまり関心は持っていなかったが、パーマをかけたような髪型は帽子を被っているようでその印象だけが残っている。

鋸坂少年は「アルト」という楽器を与えられた。教師から、「アルト」はリズムの裏側を受け持つ楽器だと教えられた。鋸坂少年がピンと来ていないと感じた教師は、さらに「大太鼓の音が聞こえないときに吹け」と復唱した。「ああ、そうか」と思った。「アルト」は変な臭いがした。これまで何人の息や唾液を吸い込んでいるのかと思うと、表現するのが難しい臭いであった。自分の「アルト」だけかと思いきや、バリトンとかトロンボーンなど他の楽器に鼻を近づけてみたら同じような臭いがしたので安堵した。少年が初めて合奏に参加した

のは「海兵隊」という行進曲であった。「タン・タカタカ・タン・タカタカ・タンタカタタタター」が出だした。教えられたとおり太鼓の音の間に吹いた。アルトには3本のピストンがあり、ピストンを押し下れたり離したりして音階を操る楽器だ。いや、それだけでなく吹く息の強弱でも音階が区別された。練習が終わり、少年は教師に褒められた。「同じ調子で最後まで一貫していた」である。何のことはない。ピストンを楽譜どおりに操った記憶は無かったのだ。その日、少年は教師の批評が良く分からずに、「タン・タカタカ・タン・タカタカ・タンタカタタター」と口遊みながら米ノ津橋や新町・東元町を伝って帰宅した。練習する曲は行進曲がほとんどだった。「雷神」・「旧友」・「士官候補生」・「威風堂々」が好きで、練習の合間に皆でレコードを聴いた。自分たちの演奏と比べものにならないというのが第一点、第二点はアルトの音色を発見出来ないという事だった。アルトは地味だった。ある日、鋸坂少年は一つ先輩のYさんに声をかけられた。Yさんはトランペットを吹いており、卓越した奏者だった。トランペットは高音域を受け持ち、力強く鋭いつやのある音を出す楽器である。小さいのにどうして元気のある音を出すのだろうと思っていた。Yさんにトランペットを手取るよう勧められた。少年は、満足に楽譜を読めない自分に声をかけてもらい、緊張しつつも嬉しかった。恐る恐る楽器を手にした。不思議と例の表現するのが難しい臭いは無かった。少年は肺が破裂する位呼吸し、マウスピースに思いっきり吹きつけた。ところが「ブーツ」という音がマウスピースから漏れただけで、力強く鋭いつやのある音は微塵も聞こえなかった。Yさんは微笑んでいた。少年はまた挑戦した。それでも結果は同じだった。楽器の音が出ないのである。三回・四回でもダメだった。そのとき、Yさんが「こうして吹くんぞ」と言ってトランペットを吹いた。レコードで聴いたトランペットの音と同じ音が耳に入った。素晴らしい音色である。「頬は膨らませず、口をすぼめて空気を送る」こんな言葉が少年の脳裏を貫いた。同時にトランペットの難しさを初めて知った。アルトが懐かしく感じられた。アルトに済まないと思った。時は過ぎて行った。トランペットは上達しなかったが、Yさんのトランペットは相変わらず素晴らしかった。小刻みで高い音が余韻を残して耳に入るたびに、鋸坂少年は聞き惚れた。他の部員も同じである。同時に、上達しない自分に失望した。「素質」とか「能力」とかの言葉が過ぎた。Yさんの家は名古屋落だった。父親は漁師、Yさんも漁の手伝いをしてるようだった。いつだったか、Yさんの家に遊びに行ったことがあった。漁の事や将来の夢とかを話してくれた。「将来は有名なオーケストラに入ってトランペットを吹きたい」が口癖だった。そんな話しのとき、Yさんの眼は輝いていた。鋸坂少年は、Yさんなら出来ると信じた。と同時に、自分の未熟さを呪った。年が改まった。部員から3年生の卒業後について話を聞いた。その中でビックリする事があった。「Yさんは就職するらしい」との事である。

以下、次号へ続く





月	火	水	木	金	土	日
	1 防災の日 関東大震災記念日 夢二忌 (竹久夢二 1934)	2 宝くじの日	3 ベッドの日 草野球の日 組合の日 遼空忌 (折口信夫 1953)	4 くしの日 クラシック音楽の日	5 石炭の日 国際チャリティーデー	6 黒豆の日
7 CMソングの日 鏡花忌 (泉鏡花 1939) 英治忌 (吉川英治 1962)	8 サンフランシスコ 平和条約調印記念日 帰雁忌 (水上勉 2004)	9 重陽 救急の日 食べ物を大切にす日 九九の日 温泉の日	10 下水道の日 屋外広告の日 世界自殺予防デー 車点検の日	11 警察相談の日	12 宇宙の日 水路記念日 マラソンの日 公衆電話の日	13 世界法の日
14	15 老人の日 国際民主主義デー ひじきの日	16 オゾン層保護の ための国際デー マッチの日 競馬の日	17 モノレール 開業記念日	18 かいわれ大根の日	19 苗字の日 糸瓜忌 (正岡子規 1902)	20 バスの日 空の日 お手玉の日 汀女忌 (中村汀女 1988)
21 敬老の日 国際平和デー 世界アルツハイマーデー 賢治忌 (宮澤賢治 1933)	22 秋分の日 国際ビーチ クリーンアップデー	23 テニスの日 不動産の日 万年筆の日	24 清掃の日 みどりの窓口記念日 世界海事デー	25	26 ワープロ記念日 八雲忌 (小泉八雲 1904)	27 世界観光の日 女性ドライバーの日
28 パソコン記念日	29 クリーニングの日 招き猫の日 豊子忌 (山崎豊子 2013)	30 クレーンの日 国際翻訳デー				

作家の命日・9月

2日 安部謙二 2019	21日 庄野潤三 2009
5日 山村美紗 1996	24日 鮎川哲也 2002
6日 山口洋子 2014	27日 森村桂 2004
9日 高木彬光 1995	29日 遠藤周作 1996

9月のできごと

日本でカラーテレビの本放送開始(1960年9月10日)
 日本初の公衆電話を設置(1900年9月11日)
 津田梅子が津田塾大学の前身を創立(1900年9月14日)
 シドニー五輪で高橋尚子がマラソン初の金メダル(2000年9月24日)

歌手レイ・チャールズ生誕90周年(2020年9月23日)

運動・週間

健康増進普及月間(9月1日~30日)
 自殺予防週間(9月10日~16日)
 老人週間(9月15日~21日)
 動物愛護週間(9月20日~26日)
 秋の全国交通安全運動(9月21日~30日)

主な文学賞 (19年度実績)

萩原朔太郎賞
 山本七平賞
 Bunkamura ドゥマゴ文学賞
 小学館児童出版文化賞



9/1現在、出水市立図書館は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、お座席を半減して開館しています。又、読み聞かせ会等の行事も見合わせています。ご理解とご協力をお願いします。

中央図書館	電話0996-63-2105	今月の休館日は 23日(定期)
高尾野図書館	電話0996-82-5452	" 18日(定期)
野田図書館	電話0996-84-3100	" 18日(定期)

今月の休館日は?

メールアドレス izumilibrary@iaa.itkeeper.ne.jp <https://www.izumi-library.com>